

「人生の午後は何と素晴らしいでしょうか」一、これはドイツ人老神父の言葉です。流石一と思われました。将に來たらんとしている「将来」から現在を見つめている信仰者の言葉です。

青春を讚美する言葉は世にあふれています。しかし、「人生の午後は何と素晴らしいでしょうか」との言葉はなかなか見当たりません。

芽吹き始めた草木の美しさは格別ですが、晩秋の紅葉もこれまた見事です。秋深まる頃、北アルプスの奥白馬岳を訪れたことがあります。なだらかな山肌に沿って金糸銀糸を織りなすかのごとき紅葉の美しさを目の当たりにした時、思わず「ワオー」と歓声を挙げました。

気づけば、八十路を越える年齢となりました。濡れ落ち葉、枯れ落ち葉などと自嘲しがちな年齢となりました。しかし、老いなければ、見えないものがある――、人生の深い味わいは、むしろ人生の午後にあるのではないか・・・。

寒暖差と紅葉の美しさとは関連しているといいますが、まさしく、寒暖差の厳しい老いの現実と向かい合う年齢となりました。

体力も気力もどんどん衰えます、物忘れがひどくなります、それでも昔のことは良く覚えています。枯れているようで、食欲はあります。羞恥心がないようで案外遠慮深くもあります。ようするに、老いるとややこしい存在となります。周りから忘却されることを密かに恐れています。「忘れられる勇氣」を持ってとはいうものの、それができなくて不幸せを覚えている者の多くがおります。

悪性コロナの影響により、4月・5月と二か月近くお会いできないままを過ごしました。しかし、その間、何人かの方とメール連絡をしました。

「いかがお過ごしですか」と尋ねますと、「結城牧師、バッチリ元気です」との返事がありました。

「主は近い」と、まじかに主イエスとお会いできる希望をいだいて日々を過ごすものでありたいと願わされます。

「若者たちは幻を見、老人たちは夢を見るであろう」(使徒2：17)。

周東のぞみキリスト教会：牧師 結城 晋次